

第2章

doi: 10.18999/bulsea.64.33

BHSECでの具体的な研修内容

亀井 千恵子

現地時間の12月8日から12月16日の日程で、本校生徒9名がBHSECとの研究交流に参加した。メンバーは本校SSH生徒研究員制度プロジェクトに所属する生徒の中から選考し、今年度の内訳は相対論・宇宙論プロジェクトから1名、ヒドラプロジェクトから1名、粘菌プロジェクトから3名、数学プロジェクトから4名となる。

(1) BHSECでの活動

日頃の研究成果を発表し、また共同研究プロジェクトの先行提示を行う。アメリカの高校での英語によるプレゼンテーションの準備として、名古屋大学・大学院に所属する留学生の協力を得ながら、発表と質疑応答の練習を行った。現地ではまず、研究パートナーとなるホストファミリーとのやり取りで、英語を使ったコミュニケーションに慣らし、さらに図書室の一角を借りてポスター

セッションを行い、本番に向けた準備をした。本番は生物と物理の授業中にパワーポイントを用いて行われた。練習と数回に渡る修正を経て臨んだ発表は最高の出来となり、聴講した現地の高校生たちからのフィードバックの評価も高かった。また、生徒たちがもっとも不安視していた質疑応答についても、挙がった質問に英語で応答することができ、それが彼らの大きな自信と満足感に繋がった。



(2) ニューヨーク市立大学での実験

ニューヨーク市立大学の教授による、免疫に関するレクチャーと最先端の研究の紹介を受け、生徒の研究に対する興味関心を高める。また日本国内の高校では難しい、マウスの解剖を体験する機会を与えていただいている。生徒たちは教科書では扱われない語彙に少々苦しみながらも、パワーポイントを使った解説を受けながら理解に努め、またBHSECでの発表を通して自信をつけた英語で、積極的に質問をする場面が見受けられた。マウスの解剖では、哺乳類の体にメスを入れることに、開始直後は戸惑いを隠せなかったようだが、強い好奇心と探求心をもって、指導していただいた教授も驚くほどに、深く体の仕組みを観察した。生徒たちには忘れられない、刺激的な体験となった。

(3) アメリカ自然史博物館での研修

博物館職員の好意により、単に博物館を訪問するだけでなく、バックヤードツアーの機会をいただいている。展示計画と、資料が実際に展示されるまでの工程、さらに館内や館外に発せられる宣伝用アニメーション作成現場に立ち会い、そこでの貴重な解説を通し、研究施設としての博物館の在り方を理解した上で、生徒たちは各自、地球の成り立ちや岩石の生成、恐竜の骨格などについての知識を高めることとなった。

4) エリス島博物館での研修

本校SSHの科目の一つである「学びの杜：地球市民学」で学習した内容を深める。学習内容の一つである民俗学に関連し、移民の国であるアメリカの、現在の姿ができるまでの歴史を実際に現地で感じ、また生々しい数々の資料に触れることで、知識を深める機会となった。

(文責 亀井千恵子)